

2024 年 度

世 界 史 B

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～10ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ H にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線部(1)～(10)に対応する問 1～10に答えなさい。なお、同名の君主がいる場合は区別のつく形で答え、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ 7 世」)

「都市」は、現代の感覚で言えば「国」のあちこちに散らばった人口の集中する部分にすぎないが、歴史的にはしばしば外部の干渉をはねかえす国としての実力を備えた。西洋史では、その典型がギリシア、ローマの都市国家に、また多少ともそれに近い姿が中世後半の都市の隆盛に見られる。

『神の国』⁽¹⁾と言えば、後 4 世紀、現在のアルジェリアに生まれ、ヒッポの司教を務め、後に「教会博士」の尊称を受けた A の主著である。英語で一般に *The City of God* と訳されるように、この書名は他のヨーロッパ語でも「神の都市」という意味に訳される。原題は *De civitate Dei* であり、なるほどキウィタス(*civitate*はその格変化した形)という単語は国とも都市とも訳せる。この単語はさらに、君主政に対する共和政をも指し、あるいは「キウィタス＝ローマーナ」と言えはいわゆる「ローマ市民権」⁽²⁾をも意味した。都市でも国家でもありうるキウィタスの二重性は、しばしばティベル河畔の都市国家に端を発するローマの由来から説明されるが、それはローマ人が文化的模範と仰いだギリシア以来のものとも言える。

『国家』は、永遠・不変の真の観念⁽³⁾を探求する哲学にもとづき国事と人間のあるべき姿を論ずる B の主著だが、ギリシア語では古来「ポリテイア」(「ポリスのありかた」ほどの意)と呼ばれる。彼の別の対話編『政治家』は「ポリティコス」(同「市民に関わる者」)である。彼の高弟でアレクサンドロスを教えたマケドニア出身の哲学者 C の著作、『アテネ人たちの国制』は「アテナイオーン＝ポリテイア」となる。「ポリス」もまた都市とも、国家とも、政治とも、政体とも訳せるのである。

さらに遡れば、ギリシアにアルファベットをもたらしたとされる東地中海沿岸の D 人も単一の国家に統合されず、シドン、ティルス⁽⁴⁾などの都市国家に分かれた。同じくセム系で、ラクダを利用した内陸交易を担い、オリエントの広範囲でその言語を共通語とした E 人も単一の国家を持たず、シリア地方にハマト

(ハマ)、ダマスコ(ダマスクス)などの都市国家を築いた。両民族のこれら都市国家は、後にキリスト教が「旧約聖書」と呼ぶ古代イスラエルの聖典にしばしば登場する。

西ローマ帝国衰亡後の西欧では人と物の往来が長く停滞するが、11～12世紀ごろ勢いを取りもどし、商工業者の富が都市の政治的自立を促した。この変化の背景には、農業生産力の向上がもたらした貨幣経済の拡がり、遠隔地間の人や物資の流通⁽⁵⁾⁽⁶⁾の活発化、とりわけ北海・バルト海・地中海の沿岸で通商の拡大などが指摘される。

中央集権化の遅れたイタリアでは、ヴェネツィアとジェノヴァという強力な都市共和国が海上交易で隆盛を競った。12世紀にはともに、北イタリアの諸都市が神聖ローマ帝国の介入に対抗して結んだ F 同盟に加わり、自治権を守った。

同様に中央集権が弱体だったドイツでは、領邦に属さず皇帝に直属した帝国都市が自治権を拡大し、納税や軍役まで免除される帝国自由都市も現れた。北ドイツでは G を盟主として、ハンブルク、ブレーメンなどの帝国都市を中心とする都市同盟(ハンザ)が力をつけた。ハンザは商業上の協力と秩序を主な目的としたが、14世紀には同盟市のひとつを攻撃した H に対し、ネーデルラント諸都市と結んで戦い、勝利している。

宗教改革後、神聖ローマ帝国内の領邦が各々域内の教会への統制を強め、さらに三十年戦争後、神聖ローマ帝国自体が有名無実化⁽⁷⁾すると、都市は富むがゆえに有力諸侯への従属を強いられ、次第に自治権を奪われた。さらにナポレオン戦争後、各国の旧秩序がおおむね回復される⁽⁸⁾⁽⁹⁾中で、イタリアの都市共和国はその強力な自治権を失った。

国民国家の形成にいたる大きな流れの中で、都市の国家的独立はおおむね過去のものとなった。だが、国民を主権者とする西欧的近代国家の基本的な理念は、他ならぬ都市の人々が勝ち得たものと言える。アメリカ独立革命とフランス革命は、商工業者を中心とする都市住民が決定的な役割を果たした⁽¹⁰⁾からこそ、「市民革命」と総称される。アメリカ合衆国「独立宣言」も、フランスの「人間および市民の権利の宣言」も、国家による私的領域への介入を斥ける法的な権利の不可侵性を保証したが、こうした権利は今も広く「市民的自由」(civil liberties)ないし「市民的諸権利」(civil rights)とも呼ばれるのである。

問1 (a) 「神の国」と世俗的な「地の国」の区別を強調するこの著作の背景には、ゲルマン人のローマ略奪を神話の神々によるキリスト教徒への神罰と捉える、民衆からの教会批判があった。5世紀はじめ、アラリック王のもとローマを略奪し、その後ガリア西南部以西を支配したゲルマン人の一派の名は何か。

(b) 原題にも見られる、この著作が記された言語は、西ローマ帝国とカトリック教会の公用語であった。この言語の名は何か。

問2 (a) 212年、税収増などを目的として、ローマ市民権を帝国内の全自由人に与える勅令を発した皇帝は誰か。

(b) 上記(a)の勅令により、ローマ市民のみに適用される「市民法」と、ローマ市民以外も含むすべての自由人に適用される法との区別が、実質的な意味を失っていった。すべての自由人に適用される法を、「市民法」と対比して何と呼ぶか。

問3 『パイドン』『国家』などの対話編で、こうした観念は何と呼ばれるか。ギリシア語に由来するカタカナ表記で答えなさい。

問4 ティルスの人々が植民し、ローマと軍事的に衝突した、アフリカ北岸の植民市の名は何か。

問5 秋耕地・春耕地・休耕地に分け3年で一巡する、中世ヨーロッパで発達した循環的な農地利用形態を何と呼ぶか。

問6 人や物資の移動を活発化し、西欧での商業の復興の一因となったとされる、11世紀末以降数次におよんだ宗教的動機による軍事遠征を何と呼ぶか。

問7 カトリックとルター派の対立収拾を目的に、ルター派を公認した上で、各々の領主の選択する教会に領邦全体が属することを決めた、1555年の帝国議会が開催された都市の名は何か。

問8 帝国内の約300の領邦に完全な国家主権をみとめた、1648年の講和条約の名は何か。

問9 1814年から翌年にかけて、ヨーロッパの領土画定と秩序回復を交渉する国際会議が開催された都市の名は何か。

問10 自由主義的改革を求め、フランス革命の当初からの担い手となった、特権商人・大地主・法律家・新興商工業者などからなる階層を何と呼ぶか。「都市の住民」という意味のフランス語に由来するカタカナ表記で答えなさい。

Ⅱ クリミアの歴史について書かれた次の文章を読んで、文中の空欄 A ～
 Q にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。 C ・ D
・ E ・ F ・ H ・ I ・ K ・ M ・
 Q には人名が入る。その上で、下線部(1)・(2)に対応する問 1・2 に答えな
さい。なお、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ 7 世」)

クリミアは A 海の北岸から突き出た半島であり、ペレコープ地峡により
ユーラシア大陸とつながっている。その面積は、日本でいえば九州と四国の中間の
広さにあたる。クリミア北部・中部がステップ地帯であるのに対して、南部はブド
ウ畑が広がる温暖な地中海気候の一帯であり、有名な保養地としても知られる。

世界史の中で、クリミアは様々な勢力が角逐する場となってきた。紀元前 7 世紀
にはイラン系騎馬遊牧民がクリミアやドニエプル川流域を支配するようになり、最
盛期にはその影響力はペルシア・小アジア・中東の一部にまで及んだという。同時
期に、ギリシア人も海洋交易をつうじて地中海・ A 海沿岸に勢力を広げ、
クリミア半島の沿岸部にケルソネソスなどいくつかのポリス(植民市)を築いた。ギ
リシア人は、独特の動物文様を持つ装飾品や古墳の建設で知られるこの騎馬遊牧民
を B 人と呼び、最果ての地に住む野蛮人として蔑んだ。例外的に、「歴史
の父」 C は B 人の勇敢さを高く評価し、その文化や生活を好意的
に描いている。

紀元 3 世紀半ばにゴート人がクリミアに侵入し、 B は滅亡した。クリミ
アでは、その後も支配民族が次々に交代した。 A 海沿岸を支配したのはコ
ンスタンティノーブルを首都とする東ローマ(ビザンツ)帝国であり、特に法典編纂
で知られる皇帝 D (在位 527～565 年)の時代には、ケルソネソスを中心にビ
ザンツ文化が栄えた。大陸部では遊牧民の支配が続いたあと、9 世紀にオレーグ率
いるノルマン人がドニエプル水系を南下し、キエフ公国(11 世紀以降大公国)を建国
した。キエフ公国では早くからスラヴ化が進む一方、南方のビザンツ帝国との関係
も深かった。ビザンツ皇帝バシレイオス 2 世の妹と結婚したキエフ大公 E
は、988 年にケルソネソスでキリスト教(ギリシア正教)に改宗した。あとを継いだ
息子のヤロスラフは内政・外交両面に力を入れ、とりわけ三人の娘をそれぞれノル

ウェー王ハーラル3世、ハンガリー王アンドラーシュ1世、フランス王アンリ1世に嫁がせることで、自国の国際的な地位を高めた。

キエフ大公国は、十字軍によって西欧とビザンツ帝国を結ぶ地中海交易が復活し、キエフ経由の交易ルートの重要性が低下したことで衰退し、13世紀にモンゴル人の来襲により滅びた。1243年にモンゴル人のヨーロッパ遠征軍の総司令官だった が南ロシアに 国を建国し、都をヴォルガ川下流のサライに定めた。クリミア南部にはイタリアの都市国家ジェノヴァやヴェネツィアが貿易の拠点を設け、有名な『世界の記述(東方見聞録)』を書いた の父もこの地に商館を持っていたという。 国のモンゴル人は言語的にはトルコ化、宗教的にはイスラーム化し、ルーシ(ロシア人)からはタタール人と呼ばれた。同国は14世紀に全盛期を迎えたが、同世紀後半になると、サマルカンドを都とする大帝国を打ち立ててモンゴル帝国の再興を目指した に圧迫され衰えた。そのためクリミアでは、15世紀前半に 国を継承する形でクリム＝ハン国が成立した。1453年にオスマン帝国がビザンツ帝国を滅亡させると、1475年以降クリム＝ハン国はオスマン帝国の属国となった。

モンゴル人の侵攻のためにキエフが荒廃すると、14世紀にはギリシア正教の司教座が に移り、 (大)公国が発展した。 大公国はイヴァン3世統治下の1480年に 国から自立した。ビザンツ帝国の滅亡により、 の教会は正教の総本山としての権威を継承し、16世紀に入ると 大公国はローマ帝国、ビザンツ帝国に次ぐ、「第3のローマ」を自称するようになる。同時期に (雷帝)が初めて全ロシアの皇帝を名乗り、ロシア帝国の実質的な創始者となった。

キエフがモンゴル人によって占領されたのと同じ頃、バルト海沿岸に住むリトアニア人たちはドイツ騎士団と対抗しつつ国家を形成し、リトアニア大公国と称した。14世紀に入るとリトアニア大公国は急速に勢力を拡大し、1386年には、リトアニア大公ヤゲウォとポーランド女王ヤドヴィガが結婚したことで、同君連合王国であるリトアニア＝ポーランド王国が誕生した。⁽¹⁾ リトアニアは15世紀にバルト海からドニエプル川流域を経て 海に至る地域を支配する大国へと発展したが、次第にポーランドの力が強まり、1569年の「ルブリンの合同」により、実質的にポー

ランドがリトアニアを併合することになった。

1682年にロシア皇帝となったピョートル1世は、西欧視察を行い、その技術や学問を導入してロシアの近代化と強国化に努めた。北方戦争でバルト海の制海権をスウェーデンから奪い、クリミア半島東部に位置し、 海と海峡でつながる 海の制海権をオスマン帝国と争った。エカチェリーナ2世は 海沿岸地域をオスマン帝国から奪い、1783年には寵臣ポチョムキンがクリム＝ハン国を滅ぼして、クリミアはロシア帝国に併合された。1825年に皇帝として即位した は、デカブリストの乱を鎮圧するなど強圧的な専制政治を強行しながら、1848年革命の際には反革命勢力の先頭に立って「ヨーロッパの憲兵」と呼ばれた。1853年、ロシアはオスマン帝国内のギリシア正教徒の保護を名目としてオスマン帝国との戦争を開始した。この戦争は、ロシアの南下や勢力拡大を警戒するイギリス・フランス・サルデーニャがオスマン帝国側に立って参戦し、クリミアが主な戦場になったため、クリミア戦争と呼ばれる。とりわけ激しい戦闘が起きたのは、半島の南端に位置しロシア 海艦隊の基地がある 要塞である。ロシア側に不利な戦況の中、1856年にロシア・オスマン帝国間でパリ条約が締結され、戦争は終結した。

第一次世界大戦とロシア革命の最中、クリミアではボリシェヴィキや反革命軍、ウクライナ独立軍、 軍など様々な勢力が入り乱れて戦ったが、最終的にボリシェヴィキが勝利を収めた。クリミアはロシア共和国内部の自治共和国の一つとして、ソ連領の一部となった。第二次世界大戦では、クリミアは侵攻してきた 軍に2年以上にわたって占領された。ソ連がクリミアを奪還したあと、最高指導者スターリンは に協力した嫌疑で同地のタタール人を中央アジアに強制移住させ、移送途中や移送後に多数が死亡した。生き残ったタタール人の多くはその後クリミアに帰還したが、もはや同地の人口の1割程度を占めるに過ぎない存在となってしまった。大戦末の1945年2月には、米ソ英三カ国の首脳が枢軸国の扱いなど戦後処理について協議するため、クリミアの保養地 で会議を開いた。

スターリンの死後、 がソ連共産党内部の権力争いで勝利し最高指導者の地位を継ぐと、1954年にクリミアはソ連内部のロシア共和国からウクライナ共和

国に移管された。その理由は定かでないが、当時はロシア共和国もウクライナ共和国もソ連の一部であったため、移管は大きな問題にはならなかった。東西冷戦が終結し、1991年にソ連が崩壊すると、クリミアは独立したウクライナの一部となった。

問1 ポーランドについての以下の記述の中で、正しいものを一つ選びなさい。

- (あ) ポーランド人は西スラヴ人の代表的な民族であり、10世紀にギリシア正教を受容した。
- (い) 18世紀にロシアとプロイセンによって領土が二つに分割・併合され、ポーランド王国は消滅した。
- (う) 1956年、待遇改善を求める労働者と民主化を要求する学生とがポズナニで反政府反ソ暴動を起こしたが、ソ連の軍事介入により鎮圧され、首相のナジ＝イムレは処刑された。
- (え) ヤゲウォ朝断絶後に選挙王制が導入されたが、国内貴族と結んだ外国勢力の選挙干渉が起こり、国力の衰退につながった。

- 問2
- (a) この戦争の際に敵味方の別なく傷病兵の看護に従事し、その活動が国際赤十字運動の創始者デュナンに大きな影響を与えたといわれるイギリス人看護師は誰か。
 - (b) この戦争に従軍したあと『戦争と平和』を執筆し、晩年には全ての戦争への反対や無抵抗主義を掲げたことで知られる、19世紀ロシアを代表する作家は誰か。

Ⅲ 次の文章を読んで、文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。

第一次世界大戦の引き起こした惨禍の経験は、列強に紛争の平和的解決の手段の必要性を強く認識させた。まだ大戦中だった1918年1月に、アメリカ合衆国大統領ウィルソンが提案した第一次世界大戦講和のための の平和原則では、すでに国家の大小を問わず諸国の安全を相互に保証する機関の必要性が明記されていた。そしてその構想に基づいて、大戦後の1920年1月には が設立された。全会一致原則による機能不全や、大国の不参加など問題はあったが、史上初の集団安全保障のための国際機構が生まれたわけである。

さらに、大戦後のラインラント問題処理とドイツの国際社会復帰をめぐって、1925年にドイツとその周辺国との間で締結された 条約では、締結国間の相互不可侵を定め、紛争発生時の仲裁を国際仲裁裁判所と にゆだねるなど、武力を用いない紛争解決手段への模索は続いた。

これらの歩みの上に築かれたのが1928年にパリにおいて列強を含む15ヵ国によって締結された 条約である。この条約は締結国同士の戦争を国際紛争解決手段として放棄することをその内容とし、侵略に対する自衛以外の目的で行われる武力行使を制限しようとするところにその特徴があった。

だが、この条約は侵略や自衛の定義があいまいなことに当初から批判があり、当時においては残念ながら国際的な緊張の緩和にはつながらなかった。条約締結後の1931年には日本が引き起こした が起こり、その後日本とドイツは を脱退、1935年にはイタリアのエチオピア侵攻なども起こって、後の第二次世界大戦につながる戦火を防ぐことはできなかった。しかし、この 条約の理念は、のちに締結された国際連合憲章を通じて国際法における戦争の違法化、および国際紛争の平和的解決の原則の確立に大きな役割を果たしたと考えられている。

Ⅳ 次の文章を読んで、文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な文章を下の選択肢(あ)～(か)から一つ選び、記号で答えなさい。

2022年9月にエリザベス2世が死去し、息子がチャールズ3世として即位した。「エリザベス」・「チャールズ」の名は、われわれにイギリス革命の時期を思い起こさせる。エリザベス1世の死後に王位を継いだジェームズ1世は、A。ジェームズ1世の死後に王位を継いだのが息子のチャールズ1世である。チャールズ1世は、B。チャールズ1世の子が、チャールズ2世である。チャールズ2世は、C。チャールズ2世の後を継いだ弟のジェームズ2世は、D。そのあとを継いだウィリアム3世は、E。

- (あ) 議会の定めた「権利の宣言」を受諾し、メアリ2世とともに共同で王位に就いた。この国王の下では、「権利の宣言」を法典化した「権利の章典」、カトリック以外の非国教徒に信仰の自由を認めた「寛容法」が制定されるなど、議会主権が確立した
- (い) 議会の尊重と信仰の自由を約束して国王に迎えられたにもかかわらず、カトリックを擁護する姿勢を見せたため、議会は「審査法」を制定して、公職就任者を国教徒に限定することを定めた
- (う) 強権政治を続けたため、議会は「権利の請願」を提出してこれに対抗した。国王はいったんはこれを認めたにもかかわらず、国王大権に基づいて議회를解散し、ついには議会とこれを支持する人々による革命を招き、処刑された
- (え) 極端な国王大権を主張して、イギリスをカトリック教国に復帰させようとしたため、議会はこれに代わる君主を招き、抗戦をあきらめた国王は、国外に亡命した
- (お) それまでに就いていたスコットランド王位と合わせ、イングランドとの同君連合を実現したが、王権神授説を唱えて議会との対立を招き、ピューリタンへの弾圧は一部の人々のアメリカ大陸への移住を引き起こした
- (か) 礼拝と祈祷の統一をはかった統一法を定めてイギリス国教会を確立させ、対外的にはスペインの無敵艦隊を撃退するなど、イギリス絶対王政の最盛期を現出させた